The Lepidopterological Society of Japan

四国産シャクガ科の未記録種について

山 下 竹 光[1)]

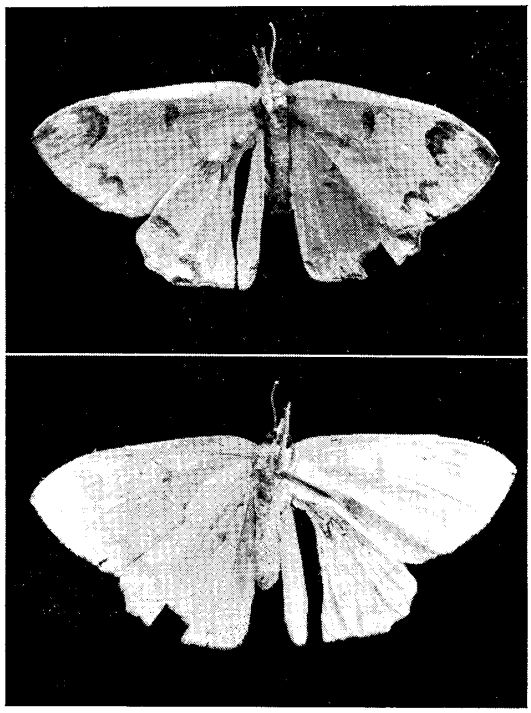
Unrecorded species of Geometridae from Shikoku

By Takemitsu Yamashita

標本整理中に，マダラチズモンアオシャク *Agathia lycaenaria chizumon* Inoue を採集していたのを見出したので報告する．

当日の採集記録によると，その日は雨上りの好天気で，路傍の草はしっとりと露にぬれて蒸し暑い日で，サツマシジミの採集中に，足もとの草むらより飛び立ったものを簡単に捕えることが出来た．

本種は保育社発行原色日本蛾類図鑑上(1957)によれば，日本での採集記録は福岡県沖の島の2頭と屋久島の1頭で，四国ではこの採集まで未記録のものである．尚緒方博士によれば，同年（1960）年の夏平安高校の先生により宿毛市沖の島付近で採集されているとの事ですが，採集季節が異なるので発生調査等に参考になると思う．



開 張 45mm

採集地 土佐清水市浦尻

採集年月日 1960年5月22日

最後に，発表に際し種々御指導下さった緒方正美博士に厚く感謝の意を表します．

4令で蛹化したミヤマカラスアゲハ

藤 岡 和 夫[2)]

Pupation of penultimate instar larva of *Papilio maackii*

By Tomoo Fujioka

1956年秋，帯広の小野泱氏から多数のミヤマカラスアゲハの幼虫を御送りいただいて飼育していたが，その中の2匹が4令で蛹化した．*Papilio* 属の幼虫はすべて5令迄育って蛹化し，4令迄黒色系の地色なのが5令に至って鮮やかな緑色に変わることはよく知られている通りであるが，緑色に変らないで前蛹となってしまったのには，奇異な印象を受けた．写真はこの2匹の内の1匹の前蛹状態を示している．

この蛹は林慶先生に委ねておいたが，翌春2匹共寄生蜂が出た．

さて，何故に4令で蛹化したのか考えてみると，次の

1） 高知県土佐清水市 布小学校教員住宅内 2） 東京都文京区丸山町11 関口方

NII-Electronic Library Service

The Lepidopterological Society of Japan

二つの原因が考えられる.

1 遺伝的な原因

2 ホルモンの分泌異常による原因

遺伝的な原因に関しては，蚕に4令で蛹化する系統と5令で蛹化する系統が存在することから，*Papilio* 属にも4令で蛹化する遺伝的な系統が存在しても不思議でないように思う.

しかし2匹共寄生蜂にやられていた事実を考えると，ホルモンの異常によると考えた方が自然であるように思う.寄生蜂の幼虫が,アラタ体や前胸線などの器管そのものを食してしまうことは無いであろうが，寄生されて居れば生理的にも異常な状態で，アラタ体ホルモンの分泌が止ったり，側心体の機能が異常になることは十分考えられることであろう．阿部東氏によれば，寄生された幼虫を解剖してみると♂の testis はほとんど成熟していないそうで，各種のホルモンの分泌が異常を起していることを裏付けるものと思う.

終りに写真撮影を御願いした大島善美氏に感謝の意を表する次第である.

大分県中津市のクロコムラサキ

白水 隆[1)]

A record of *Apatura ilia substituta*, f. *mikuni* from Nakatsu (Ōita Pref.)

By Takashi Shirōzu

クロムラサキ *Apatura ilia substituta* Butler, f. *mikuni* Wileman は九州中・南部には広く分布するが北部では珍らしいもので，長崎・佐賀両県下からは未知，福岡県下及びそれに隣接する地域では僅かに数例の採集記録があるに過ぎない．先頃，中津市の柾木和洋氏より同地で採集されたクロコムラサキの同定依頼を受けたが，その産地は分布上注目すべきものと思われたので同氏に記録されることをおすすめしたところ，私に発表するように依頼されたので次にその記録を書きとめておく．なお中津市は行政上は大分県下に含まれるが，中津川をへだてて福岡県に接し，地理的には福岡県下ともみなしうる地域である.

2♂♂，大分県中津市下宮永中津水源地のクヌギ林，1962年6月13日及び7月25日（各1♂），柾木和洋氏採集

同氏の採集されたのは現在までのところこの2頭のみである．標本は現在私が保管している．資料を提供された柾木和洋氏に感謝する.

北アルプス朝日岳の夜蛾

中川秀幸[2)]

Noctuidae collected at Asahigoya (2200m)

By Hideyuki Nakagawa

朝日岳は北アルプスの北端近くに位し標高2413mの高山である.

私は1961年7月20日及び1962年7月26日の2回朝日岳と前朝日岳の間にある朝日小屋附近（富山県下新川郡朝日町 標高約2200m）でアセチレン燈による夜間採集を行い少数ではあるが採集した蛾のうちヤガ科のものについて報告する.

第1回目の採集は非常に風が強く午後8時40分頃から一時風が弱まった10数分間の間に採集出来たものであり，2回目の採集は可なりよい採集条件であったが翌日の行動を考えて午後9時で打切ったので充分な成果をあげ得なかった.

1. *Trichosea champa* Moore キバラケンモン2♂♂（1961年採集）
2. *Canna sugitanii* Nagano スギタニアオケンモン 3♂♂（1961年）
3. *Apatele rumicis oriens* Strand ナシケンモン 1♂（1961年）1♂（1962年）
4. *Sineugraphe longipennis* Boursin オオカバスジヤガ 2♂♂（1961年）1♂（1962年）
5. *Sineugraphe disgnosta* Boursin ウスイロカバスジヤガ 1♂（1961年）
6. *Diarsia brunnea* Schiffermüller et Denis ミヤマアカヤガ 1♂（1961年）4♂♂（1962年）
7. *Diarsia dewitzi* Graeser モンキヤガ（1962年）
8. *Anaplectoides prasina* Schiffermüller et Denis アオバヤガ 1♂（1961年）
9. *Anaplectoides virens* Butler オオアオバヤガ 1♂（1962年）
10. *Spaelotis lucens* Butler シロオビハイイロヤガ 1♂（1962年）
11. *Leucania separata* Walker（アワヨトウ 1♂（1962年）

1) 福岡市大坪町1丁目九州大学教養部生物学教室 2) 富山県黒部市荻生新堂

NII-Electronic Library Service